

県感染症情報センター

声なき 感染症を知る ◆11◆

昨年12月、国立感染症研究所はE型肝炎の患者が、近年倍増していると発表しました。今回は、E型肝炎ウイルスについて話をします。

▽E型肝炎ウイルスとは  
ウイルスを原因とする肝炎には、A、B、C、D、EおよびG型が知られています。

このうちE型肝炎ウイルスは、下水設備が不十分な発展途上国などで、ウイルスに汚染された飲料水を飲むことで感染すると考えられていましたが、ウイルス

抗体の保有が認められたことから、人畜共通感染症であることを突き止めました。その後の調査で、このウイルスはブタ以外にインシシ、シカ、ヤギにも感染していることが分かっています。

ヒトへの感染は潜伏期間が平均40日とやや長く、多くの場合は症状が出ることはありませんが、発症した時は腹痛、食欲不振、全身倦怠(けん) 怠感、発熱、嘔吐(おつと)などが現れます。その後、黄疸(おうだん)や尿が黄色くなるなどが2

は127人、26年は154人(平成27年3月9日現在)と、以降3年連続で100人を超え、倍増していることが分かりました。

契機となった事件は、平成23年に起こった焼き肉チェーン店での、死者を含む多くの患者を出した集団食中毒事件でした。この事件を受け厚生労働省や農林水産省は研究班を組織し、生肉の安全性確保に関する検討を行った結果、加熱以外に「有効な対策がない」と結論を受け、食品衛生法の規格基準を改め、24年7月に牛レバーの生食の販売や提供を禁止しました。

しかし、豚生レバーはその規制に含まれておらず、牛生レバーの代替品として豚生レバーを提供する飲食

牛レバー禁止で増 加熱調理の習慣を

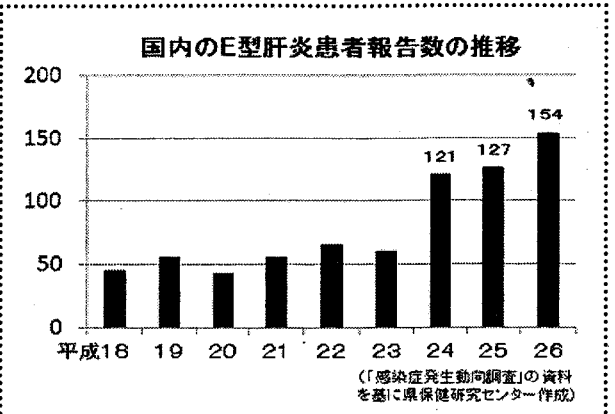
はどこから来るかは不明のままです。

2001年、スペインの研究者が、ある地域でヒトとブタの血液を調査し、両方ともに感染の形跡を示す

週間程度続いたのち、自然に治癒します。

特に、感染に注意が必要なのは妊婦さんで、高度の肝機能不全と意識障害を示す「劇症肝炎」への移行率が高いと言われています。

▽患者増加の背景と注意点  
感染症発生動向調査によると、E型肝炎患者報告数は、平成17～23年は年間約40～70人程度で推移していましたが、生食用牛レバーの飲食店での提供を禁じた24年には121人、25年



国内のE型肝炎患者報告数の推移  
〔「感染症発生動向調査」の資料を基に県保健研究センター作成〕

121人、25年

店が増加したことが、患者増加の要因と考えられています。

実際、提供する飲食店は24年の調査では80店が25年には190店と増加しており、また昨年は患者のうち少なくとも10人が、豚の生レバーが原因と確定されています。

豚はE型肝炎ウイルスが、牛は腸管出血性大腸菌が、鶏はカンピロバクター菌などが常在しており、肉の鮮度や衛生管理に係わらず、流通しているものすべてで加熱用です。十分に加熱し、中心部の色に変化していることを確認する習慣を身につけましょう。  
(県感染症情報センター) 第2木曜日掲載